

# 学校自己評価書

令和7年度

令和8年3月

学校法人長嶋学園

専門学校静岡医療秘書学院

## 学校評価委員会

|      |               |
|------|---------------|
| 委員長  | 加陽 直実 (学院長)   |
| 副委員長 | 増田 正史 (法人理事長) |
|      | 齋藤 昌一 (副学院長)  |
| 委員   | 牧野 洋代 (法人事務長) |
|      | 野々村大介 (教頭)    |
|      | 金井 涼稀 (教務課長)  |
|      | 高市 篤哉 (学生課長)  |
|      | 安西 理子 (学生課)   |

## 目 次

|                           |      |
|---------------------------|------|
| 学校評価について                  | P 1  |
| I 学校の現況                   | P 2  |
| II 評価の基本方針                | P 3  |
| III 教育目標・計画               | P 3  |
| IV 評価項目の達成及び取組状況          |      |
| 1. 教育理念・目標                | P 4  |
| 2. 学校運営                   | P 5  |
| 3. 教育活動                   |      |
| ①目標の設定等                   | P 6  |
| ②教育方法・評価等                 | P 7  |
| ③資格試験                     | P 8  |
| ④教職員                      | P 9  |
| 4. 学習成果                   | P 10 |
| 5. 学生支援                   | P 11 |
| 6. 教育環境                   | P 12 |
| 7. 学生の受入れ募集               | P 13 |
| 8. 財務                     | P 14 |
| 9. 法令等の遵守                 | P 15 |
| V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 | P 16 |

## 学校評価について

### 教職員による自己評価

#### 評価項目

「専修学校における学校評価ガイドライン」を基に項目を設定

#### 評価方法

教職員が学校の目標・計画等に沿った取組の達成状況や、それらの取組が適切に行われたかについて評価・公表を行い、学校運営の改善等に活用する。

各評価項目を「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて4段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする

### 学生による自己評価

#### 評価項目

授業内容に対する評価を10項目にわけて、無記名にてアンケート調査を実施

#### 評価方法

各評価項目を4段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする

### 学校関係者評価

学校関係者評価委員が学校の教育活動や教育環境など自己評価報告書を基に評価する

## I 学校の現況

1. 学校名 専門学校静岡医療秘書学院

2. 所在地 〒422-8042 静岡市駿河区石田1丁目20番11号

### 3. 沿革

1968（昭和43）年 静岡県医師会副看護学院（通信制）として開校

1976（昭和51）年 静岡県医師会MS学院と改名（MS…Medical Secretary）

1984（昭和59）年 静岡県医師会医療秘書学院と改名（高卒以上一般公募開始）

1991（平成3）年 本学院の運営を学校法人静岡女子商業学園が受託

1993（平成5）年 専門学校静岡医療秘書学院として開校

2003（平成15）年 法人名を長嶋学園に変更

### 4. 学科の構成

課程名 商業実務専門課程

学科名 医療秘書科

修業年限 2年 全日制

### 5. 学生数及び教職員数（令和8年2月1日現在）

学生数 68名

教職員数 専任3名 常勤講師1名 講師18名

事務職員 1名

### 6. 施設の概要

#### 1階

職員室兼事務室、学院長室、多目的教室（101教室）、保健室、ロビー

#### 2階

普通教室、情報処理室、学生ホール、教材準備室

## Ⅱ 学校の基本方針

### 教育理念

日本医師会認定医療秘書養成機関に相応しい、専門的な医療事務の知識と最新の情報処理技能を兼ね備え、全国の医師が本当に求める医療秘書を養成する。

また、医療業務に携わるために必要な知識と技能を習得するだけでなく、人として義を重んじ礼を尽くす人間形成に基づき、医療現場において病める人たちに優しく接し、人の悩みのわかる人間愛に根ざした奉仕の精神を兼ね備えた人材を育成する。

## Ⅲ 教育目標・計画

1. 日本医師会認定医療秘書養成機関として、良好な医療体制を構成するチーム医療の一員として医療機関で重要な役割を担う医療秘書を育成する。
2. 教育環境に常に気をくばり対応するとともに、社会・医療関係者の意見をより多く取り入れる。
3. 学院生便覧（学則・細則・教育課程・教務規程・学生の心得等のさまざまな規程）を理解させ教育を行う
4. 教職員は、学生の伴奏者であることを自覚し、学生個々の将来を見据えた教育を行う。

### Ⅲ 教育目標・計画

#### 1. 教育理念・目的・人材育成像

| 評価項目  | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|---|------------------------------|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか<br>(専門分野の特性が明確になっているか)        | 3. 6                         |
| 学校における職業教育の特色は定められているか                                | 4. 0                         |
| 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか                            | 3. 0                         |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・<br>学生・関係業界・保護者等に周知されているか | 3. 4                         |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学校に対応する業界のニ<br>ーズに向けて方向づけられているか       | 3. 2                         |

#### 【特記事項】

- ◆ 理念等は P3 記載
- ◆ 「笑顔と信頼をつなぐ医療の窓口」として、医療機関との連携を構築し、地域医療に貢献する人材の育成に取り組み、医療秘書・医療事務への就職に繋げていく
- ◆ 知識と技能の習得のため、現役医師等の講師陣が専門的な教科の講義を行っている

#### 【課題】

- ◆ 表面的な言葉遣い等だけではなく、表情やしぐさ等から相手の心情を読み取る、また逆に自分の意思を相手に訴えかけることが大切だということを教え、各自に身につけさせることが必要ではないか
- ◆ コミュニケーションが苦手、会話と対話の違いが区別できない学生への指導

#### 【改善策】

- ◆ 日常から教師や来訪者に対し、笑顔で気持ちの良い応対をする学生が増えてきてはいるが、露骨に不快感を相手に与える学生も少数おり、その多くは家庭環境にも起因することがあるので、教員間で周知し、同じ方向に向けて指導を継続することが必要
- ◆ 職員が学生へ積極的に声掛けや話をする中で、コミュニケーションが苦手、内気な学生が明るい表情で会話や対話ができるようになった。学生の方から職員へ声を掛けてくるケースも増え、成長の様子がみられた

## 2. 学校運営

| 評価項目                                     | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか                     | 3. 6                         |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか                    | 3. 4                         |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3. 0                         |
| 人事、給与に関する規程等は整備されているか                    | 2. 8                         |
| 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか           | 2. 6                         |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか          | 3. 2                         |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか                  | 3. 6                         |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                | 3. 6                         |

### 【特記事項】

- ◆ 事業計画については運営委員会の資料に記載
- ◆ 情報公開についてはHPで公開している
- ◆ 情報を共有するNASを設置して、教職員相互の仕事効率化を図っている

### 【課題】

- ◆ 必ずしも理想どおりにはいかないと思うが、行事や資格試験の時期や方向性に対し、学生目線で考えて決定していくことが必要ではないか
- ◆ 情報の共有はできてはいるが、実際の業務内容で共有できていないことがある
- ◆ 教育活動の情報公開（HPやInstagram）は教職員が行なっているので業務の多忙化に繋がってしまう

### 【改善策】

- ◆ 個別案件に関して、職員全員で話し合う時間を頻繁に取る
- ◆ 1人ができればではなく、共に業務をやるなど業務内容も共有するし、その人がいなくても、誰かがフォローに入れる状況を作っておく必要がある
- ◆ 情報公開に関しては、業者へ委託をすればもっと頻繁に公開ができ、また精度の高い品質の良いものが伝えられるのだが、予算的な問題があるので教職員が勉強しながら、HPの更新やInstagramへの投稿を行った

### 3. 教育活動 ①目標の設定等

| 評価項目   | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------|
| 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                                 | 3. 4                         |
| 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 3. 6                         |

#### 【特記事項】

- ◆ 教育理念については P3 記載
- ◆ 日本医師会の認定医療秘書の推奨カリキュラムに準拠している

#### 【課題】

- ◆ 社会のニーズは年々少しずつ変化していると思うので、学生教育に生かすために、そのニーズを確実に把握するための手段が必要ではないか
- ◆ 知識と技能の習得により、地域医療へ貢献できる、社会のニーズへ対応できるような人材の育成を目指す

#### 【改善策】

- ◆ 採用された学生のどこが評価されたのか、また短期で離職するものと長期奉職するものの具体的要因を分析するために、アンケート等で情報を収集することが必要
- ◆ 医療の専門教科の知識の習得として、現役医師から高度・最先端の医療を学ばせていただいている。また、人間愛に根ざした奉仕の精神を身につけるため、接遇を意識させて実行、清掃活動などを取り組ませることで、心豊かな人材の育成へ努めた

### 3. 教育活動 ②教育方法・評価等

| 評価項目  | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|---|------------------------------|
| カリキュラムは体系的に編成されているか                                     | 3. 6                         |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか      | 3. 2                         |
| 関連分野の企業・関係施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか        | 3. 2                         |
| 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか | 3. 4                         |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか  | 4. 0                         |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れられているか                             | 3. 2                         |
| 成績評価・単位認定、進級・卒業の基準は明確になっているか                            | 4. 0                         |

#### 【特記事項】

- ◆ 医療機関のニーズを踏まえ、日本医師会制定カリキュラムに、看護概説・総合医療演習 課題研究（検定強化）・礼儀作法等の学校設定科目を加えている
- ◆ 実践的な職業教育の一環として、実習（病院アルバイト）を積極的に進めている
- ◆ 成績と単位数などの評価や卒業基準は、学生便覧として学生へ配布している

#### 【課題】

- ◆ 2年時の最初のうちから、もっと進路決定への意欲を持たせたい
- ◆ 資格取得に対する授業は充実している。就職や職業に対しての授業を増やした方が、学生も就職後のイメージが付きやすいのではないかと考える

#### 【改善策】

- ◆ 実習の前段階として、選択理由や感じた魅力、実習で習得すべき能力に加え、授業で得た知識をどのように活用するかを明確化させる思考プロセスを促す授業を組み込む
- ◆ 仕事をするとはどんなことか、お金を稼ぐとはなど社会へのスタートを切りやすいような授業を行っていききたい。離職者も減るのではないかと考えられる

### 3. 教育活動

#### ③資格試験

| 評価項目                            | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|---------------------------------|------------------------------|
| 資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか | 4.0                          |

#### 【特記事項】

- ◆ 日本医師会認定校のみ受験可能な日本医師会医療秘書認定試験と全医秘協医療保険請求事務実技試験を重点として取り組んでいる
- ◆ その他、調剤事務管理士技能認定試験・医療秘書技能検定・医師事務作業補助者検定・診療報酬請求事務実技試験などの資格取得に励んでいる。また、商業実務として、ワープロや情報処理、電卓、秘書検定なども取得できるようにしている

#### 【課題】

- ◆ 日本医師会認定校の資格への全員合格と、他の医療事務系の資格取得への合格を目指す
- ◆ 10月末に行われた全医秘協医療保険請求実技試験では、多くの学生が合格することができたが、合格率100%とはならなかった
- ◆ 日本医師会医療秘書認定試験に合格して認定を受けるには、秘書検定や情報処理、ワープロ、電卓など3群の3級以上の取得が必須条件となる

#### 【改善策】

- ◆ 日本医師会認定の資格（日本医師会医療秘書認定試験・全医秘協医療保険請求事務実技試験）の全員合格のため、強化授業を行っている。他の医療事務系の資格取得へのサポートも行い、医療秘書技能検定や医師事務作業補助者検定、調剤事務管理士技能認定試験などの資格も取得した。1年次は保険請求が中心となる授業、2年次は医師事務を中心としており、保険請求の基礎があるからこそ、他の検定にも活かされている
- ◆ 不合格は来年度も受験をさせる。フォローをしっかりとし、取得への意識を無くさないようにさせる
- ◆ 日本医師会医療秘書認定試験の合格条件として、情報処理やワープロなどの資格取得が必須となるため、年に数回検定日を設けている。また、医療機関で電子カルテの導入へ移行していることもあり、ワープロは1級合格を目指すように取り組ませている

### 3. 教育活動

#### ④教職員

| 評価項目   | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------|
| 人材取得目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか                    | 3. 0                         |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 3. 6                         |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか  | 2. 0                         |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか                                     | 2. 0                         |

#### 【特記事項】

- ◆ 高度化する医療への情報を得るため現役医師等が専門分野の講義を行っている
- ◆ 医療事務・医療秘書の知識と技能を指導できる教員を有している
- ◆ 医師会の主催のセミナーへ参加をしている

#### 【課題】

- ◆ 高度化する最先端の医療を学ぶにあたっては、教科書の内容が古く、各教科担当の現役医師より改善を求められている
- ◆ 医療事務・医療秘書関連の授業は、外部委託している講師が授業を行い、専任教員がサポートへ入る体制を取った
- ◆ 医師会主催のセミナーは幅広い領域を学べる一方で、医療全体の範囲はあまりに広大であるため、より実務に直結する学びを得るにはどうすればよいか

#### 【改善策】

- ◆ 教科書の改訂を、全国医師会医療秘書学院連絡協議会（定例総会）で議題として取り上げた。各県の日本医師会認定校で授業担当者へ改定箇所提出が求められた。本格的に教科書改訂の動きが進み、WEB会議などを行っている
- ◆ 医療事務・医療秘書関連の授業に特化した教員を採用した。本学院の教員で対応できるように職員間でも勉強会・研修会を行った
- ◆ 刻々と変化する医療現場を理解し、最新の医療事務職の姿を的確に捉えるべく、時宜にかなった研修への参加。学生の学習意欲を持続的に高めるための教育手法を磨くべく、教育者として研修を受ける

## 4. 学習成果

| 評価項目                                  | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|---------------------------------------|------------------------------|
| 就職率の向上が図られているか                        | 3. 4                         |
| 資格取得率の向上が図られているか                      | 4. 0                         |
| 退学率の低減が図られているか                        | 3. 2                         |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか            | 3. 6                         |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3. 6                         |

### 【特記事項】

- ◆ 医療機関への就職決定率の確保
- ◆ 卒業後のキャリア形成のために、また将来ありたい姿をイメージできるように、アルバイトを推奨している
- ◆ 退学・休学者への対応

### 【課題】

- ◆ 就職決定率の高さを維持するために、職業能力を身につけて向上すること、自己実現を追求していくプロセスや行動ができること、それを卒業後のキャリア形成へと繋げること
- ◆ 交友関係や異性、生活環境の問題で、就学意欲が欠如して学校へ足が向かず、休学・退学へ進路変更となるケースがある

### 【改善策】

- ◆ 実習アルバイトを経て、実践的なスキルの向上を図り、また、語彙力を身につけさせ、実際のコミュニケーションを効果的に使い分け、自分の潜在能力を最大限に発揮することと、医療機関で求められる人材の育成で、就職決定率の確保を維持している
- ◆ 目的を再度、明確にさせること（患者さんの不安を和らげたいなど、人のために働きたいと思っていた気持ち）や、最終的な自分の目標や到達点（医療事務・医療秘書を目指そうとした理由）を確認させるなどの方法で説得をしている。また、実習後に感想文を書かせ、報告書をまとめることで、自分を見つめ直し、入学時の初心を思い出すことや、就職への意欲向上に繋がっている

## 5. 学生支援

| 評価項目                                     | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか                   | 4. 0                         |
| 学生相談に関する体制は整備されているか                      | 3. 6                         |
| 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか                  | 3. 6                         |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか                       | 3. 0                         |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか                    | 3. 4                         |
| 学生の生活環境への支援は行われているか                      | 3. 4                         |
| 保護者と適切に連携しているか                           | 2. 8                         |
| 卒業生への支援体制はあるか                            | 3. 6                         |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか                | 2. 6                         |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか | 3. 0                         |
| 関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか    | 2. 6                         |

### 【特記事項】

- ◆ 高等教育の修学支援新制度の対象機関として認められ、条件を満たす学生は給付奨学金と入学金・授業料減免を利用できるようになった

### 【課題】

- ◆ 修学支援新制度や日本学生支援機構の奨学金を利用している学生が年々増加し、現在は半数以上いる
- ◆ 連休後などに連続して欠席する学生が多く見られるようになった。就職活動や医療機関のアルバイトで、仕事内容や人間関係などの悩みを訴える学生が増えてきている

### 【改善策】

- ◆ 授業料は一括または分割払い（4月・9月）の納付となっているが、給付の遅れや手続きの不備等が生じることもあり、申し出があった家庭に限り、分割を月毎にするなどの対応をしている（2025年度から、扶養する子どもが3人以上の多子世帯に対して、授業料が無償化させるようになった）
- ◆ 必要に応じて、心理カウンセラーへ相談できる体制を整える

## 6. 教育環境

| 評価項目   | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|--|------------------------------|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか             | 3. 6                         |
| 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか | 3. 6                         |
| 防災に対する体制は整備されているか                            | 2. 8                         |

### 【特記事項】

- ◆ 玄関のドアとロビーの床の補修工事と内装の塗り替え、シューズボックスとロッカーの新規購入を行った
- ◆ 海外研修旅行を円安と関税の影響を受けている
- ◆ 防災対策として、水、アルファ米、携帯トイレ、ウェットティッシュを備蓄している

### 【課題】

- ◆ 施設が30年を経過し、ロビーの床のヒビ割れ箇所が多くなり、壁の汚れも目立つようになった。玄関ドアは重く、高齢の講師では開けられない人もいる。また、開放したままにすると、暑い寒いが生じ、エアコンをつけたままにするので電気代が掛かる
- ◆ 海外研修旅行は例年通り実施したが、トランプ政権になり円安と関税の影響が深刻で、学生の負担が増え、実施困難な状態である
- ◆ 防災用品の収納が困難になって来ている

### 【改善策】

- ◆ ロビーの床を剥がし、ヒビ割れを補修して張替えを行った。その際、玄関のドアも重く開閉が困難な為、自動ドアへと改装を行った
- ◆ 海外研修旅行は例年、4泊6日で実施していたが、予算的に厳しくなり、学生の負担も多くなる為、3泊5日へとプランを変更した
- ◆ ロビーの床の改装時に不用品等を廃棄したので、倉庫や階段下に収納スペースを設けることが出来た

## 7. 学生の受入れ募集

| 評価項目                                 | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか       | 3. 8                         |
| 学生募集活動は、適正に行われているか                   | 3. 8                         |
| 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか | 3. 8                         |
| 学生納付金は妥当なものとなっているか                   | 4. 0                         |

### 【特記事項】

- ◆ 真実性・明瞭性・公平性・法令遵守等十分配慮し、入学希望者に判断材料を提供している
- ◆ HP は最新情報に更新し、学院の雰囲気や学生の様子が伝わるように取り組んでいる

### 【課題】

- ◆ パンフレットの資料請求やオープンキャンパスの開催案内と来校への紐づけとして、進学サイトの媒体を使い募集へ繋げているが、今年度は、資料請求と来校申込みが大幅に減少していて、入学予定者も少なく、かなり厳しい状況である
- ◆ HP へは、イベント開催ごとに、学校の雰囲気や学生の様子を掲載はしているが、募集活動へ結びついているのかは不透明である

### 【改善策】

- ◆ 資料請求と来校者の減少は、理由は曖昧だが、多職種の初任給が大幅にアップしたことも原因の一つであり、それによって医療事務・医療秘書への職種の希望が減少したと思われる。全国医師会医療秘書連絡協議会では、日本医師会の方へ診療報酬請求の改定に伴い、医療秘書・医療事務員の賃金の値上げを提案した。加えて、扶養する子どもが3人以上の世帯では、大学や短大、専門学校が授業料が無償化され、4年制大学への進学が容易になり、増加したのも影響しているのではないだろうか。他校（大原・産技）も医療事務の募集では、かなり苦戦しているようである
- ◆ HP のトップページにプロモーション動画を掲載していたが、数年前の作成動画なので、明るく楽しそうなイメージへと印象が良くなるような、スライド式の4枚の広告へと変更した。このHPによって、オープンキャンパス来校者や出願者が増えることを期待している

## 8. 財務

| 評 価 項 目                  | 適切…4 ほぼ適切…3   |
|--------------------------|---------------|
|                          | やや不適切…2 不適切…1 |
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 3. 6          |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3. 8          |
| 財務について会計監査が適正に行われているか    | 4. 0          |
| 財務情報公開の体制準備はできているか       | 4. 0          |

### 【特記事項】

- ◆ 財務情報は HP で公開している

### 【課題】

- ◆ 広報活動費を明確に予算化し、広報担当が計画し易いようにするべきではないか
- ◆ 学生募集が定員に達するようになれば、財務は安定する

### 【改善策】

- ◆ 前項7（学生の受入れ募集）に関連する
- ◆ 募集活動に力を入れるしかない

## 9. 法令等の遵守

| 評 価 項 目                       | 適切…4 ほぼ適切…3<br>やや不適切…2 不適切…1 |
|-------------------------------|------------------------------|
| 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4. 0                         |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか    | 2. 6                         |
| 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか         | 3. 8                         |
| 自己評価結果を公開しているか                | 4. 0                         |

### 【特記事項】

- ◆ 自己評価結果は HP で公開している

### 【課題】

- ◆ 学生名簿を校外へ持ち出して運用している（講師を含む）
- ◆ 専修学校設置基準の遵守はもちろんだが、医療機関の要望にも応えなければならない

### 【改善策】

- ◆ 校外へ持ち出す際は、日時や理由を管理帳に記録し、学校が一元的に把握できるようにする
- ◆ 医療機関からは、可能な限り毎日アルバイト（実習）へ来て、1日も早く仕事を覚えて欲しいという要望がある。毎日は難しいが、時間数の見直しや、ニーズに合わせたカリキュラムの編成が必要となり検討すべき時期に来ているのではないかと。また、文科省から、来年度より修了認定が総時間数 1700 時間以上から、総単位数 62 単位以上と単位制へ移行になる

## V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 今年度大きな事業として、施設の老朽化に伴い、玄関の開閉式ドアを自動ドアへと変え、また、ロビーのひび割れが酷かったため、補修を兼ねて床の張り替え、同時に室内の壁の塗り替えも行った。シューズボックスとロッカーも新たに購入したので、綺麗で落ち着いた雰囲気の内へと環境が整った。しかし、外壁が破損して落下の危険性があると業者から指摘を受けているため、来年度は外壁工事が必要となる。
- 日本医師会認定校で受験可能な「全医秘協医療保険請求事務実技試験」と「日本医師会認定試験」では、全員合格を果たすことは出来なかったが、調剤事務管理士技能認定試験や医療秘書技能検定、医師事務作業補助検定試験、診療報酬事務能力認定試験など、多くの資格を取得した。医師事務作業補助者検定試験においては2年生が全員合格を果たした。また、難易度の高い診療報酬事務能力認定試験は合格率51%ではあったが、全国平均を上回った。各学年とも積極的に勉強に励み、成果をあげることが出来た。
- 学生募集に関して、今年度はオープンキャンパス来校者が大幅に減り、出願も減ったことにより、入学予定者は昨年度に比べ12名ほど少ない。原因としては、医療秘書・医療事務の人気の低迷と高卒の就職者の基本給がかなり上がったことにより、進学者が減ったのではないかと思われる。来年度は、本学院の魅力をより一層伝えられるように、オープンキャンパスでは、体験授業を設けるなどの工夫をしていき入学者の確保へ努める。